



まちの記憶をデジタルアーカイブ@松原市 ～オープンデータソン概要説明～

諸国・浪漫 / OpenStreetMap Foundation 坂ノ下 勝幸
facebook: K.Sakanoshita / Twitter: @K_Sakanoshita

オープンデータについて

オープンデータって？

- オープンデータは**利用規約**の一種
 - データ（文書、写真など）を何処まで使って良いかを**決めたルール**のこと
 - 「**自由に使える**」がオープンデータ
- オープンデータは誰のもの？
 - **作った人や組織の著作物**
 - 著作権の枠組みに則った「自由」
 - 「**守るべきルール**」はちゃんとある



官民データ活用推進基本法で国と地方自治体はオープンデータに**取り組む義務**がある

著者の知識と想いを伝える方法

- 筆者の知識と想いを**本**にすると、
時間と場所を超えて伝えられる
- 活版印刷で本を量産出来た結果、
多くの方たちに伝えられている
- 国民の**知る権利**を補償する
ために「**公共図書館**」が
存在している



インターネットが登場するまでは
主に**本**が知識と想いを伝えていた

インターネットで伝え方が変化

- Webサイト（ブログ、SNS）でも筆者の知識と想いを伝えられる
- ネット上の情報は失いやすい
 - Yahoo!ジオシティーズも閉鎖
 - 本は正しく保管すれば長持ちする
- コピーを保存していても、筆者しかどこまで使って良いかが判断出来ない



「伝わるけど残りにくい」ことと
「残しても活かしにくい」時代へ

オープンデータで残して伝える

- 著作権は作者の権利を守る

- 基本的に**作者の許可**が必要

- 許可する**範囲が違う**可能性

- 「残して伝える」を目的に

- ブログもSNSも残りにくく、
利用規約（ルール）が曖昧

- オープンデータとして公開し、**誰もが自由に
活用出来るよう**にすると、**残る可能性**がある



オープンデータとして公開すると
残して活かすことが出来る可能性

何を残し、伝えるか

「他人の地元」はあまり知らない

■ その地域で**愛されている神社やお寺**

- ・観光客は来ないけど、**地元民には愛着あるよね**
- ・お祭りの会場にもなっていたりするしね

■ 「**地元民しか知らない**」状態なのかも？

- ・会社の同僚に地元の話をしても、知らないと言われる
- ・知らないものに**価値を感じる人はあまりいないよね**



何に魅力を感じるかは、その人次第

■インターネットの普及で需要が広範囲化

- ・情報流通コストが劇的に低下して、ロングテール化
- ・日経：訪日客が地方潤す、消費額1兆円超え

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO46373880Q9A620C1MM0000/>

ロングテールとは、インターネットを用いた物品販売の手法、または概念。販売機会の少ない商品でも幅広く取り揃える、または顧客数を増やすことで、**全体の売上げを大きくする**

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

この部分がロングテール

情報を記録・発信していくことで
地域の魅力が伝わる可能性がある

「清水寺」は最初から世界遺産？

■ 清水寺の創建年代

- 「清水寺縁起絵巻」「今昔物語集」「扶桑略記」によれば、
宝亀9年（778年） 音羽山に着いた僧の賢心は、観音の化身から寺を任せられたことが始まり

■ 清水の舞台から飛び降りた人

- 「成就院日記」によると、飛び降りは元禄7年(1694年)～元治元年(1864年)に未遂含む**235件、生存率は85.4%**



様々な事を記録、将来に残すことで
地域の魅力や価値が生まれる可能性

オープンデータソンとは

今日は「オープンデータソン」

- オープンデータソンとは
 - 地域情報を記録・発信する活動の初心者向け体験会
- 記録の活用方法について
 - ネット検索で見つかる
 - チラシやまち歩き地図などの様々な活動に使える
 - 正確に残すことで、将来にしっかりと伝えられる



まちを歩いて、見つけた魅力を
インターネットで公開していこう

オープンデータソンで使うツール



Wikipedia
(フリー百科事典)



OpenStreetMap
(自由な地図)

百科事典と地図に記録することで
「何処に何があるか」多角的に発信

オープンデータソンの可能性

- 地域情報が百科事典と地図で公開されると、**多くの人が
その地域を知ることが出来る**
- 地域に魅力を感じた方たちによる活動が始まるなど、
新しい創造に繋がる可能性がある



地域には色々な方たちがいる

■ WikipediaとOpenStreetMapはあくまで手段

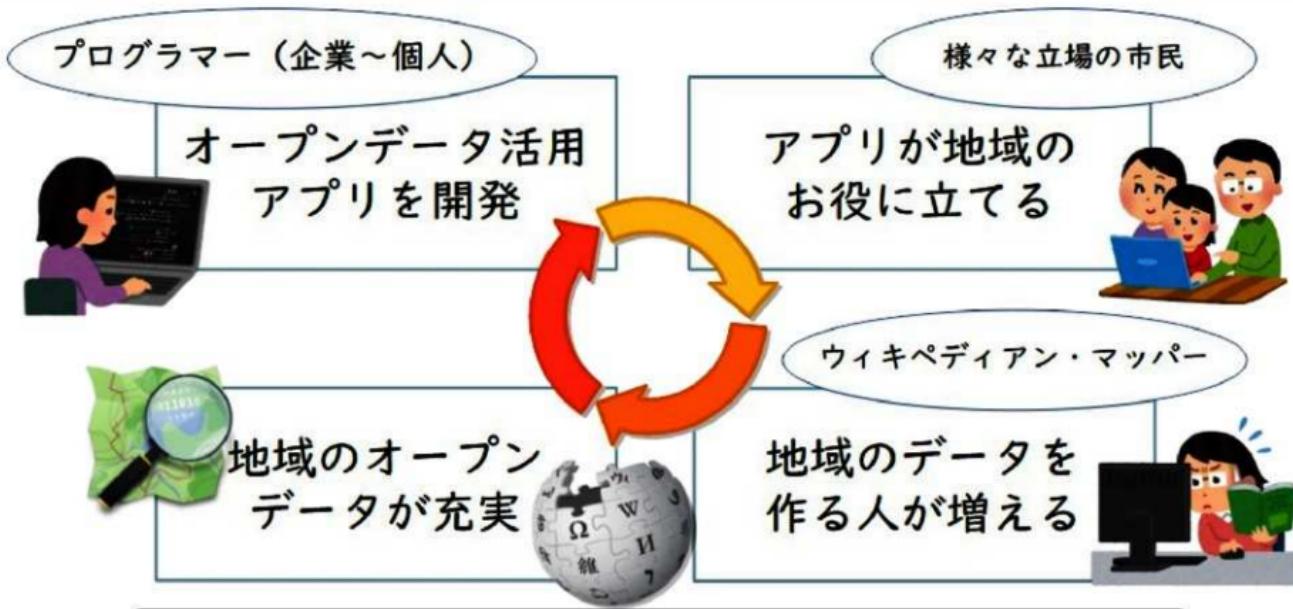
- ・自由な地図や百科事典を作る目的を持っているのはWikipediaやOpenStreetMapのプロジェクト側
- ・地域には、その**地域ならではの目的**がある

■ 地域には色々な団体やコミュニティが存在

- ・市民団体やコミュニティは基本的に**独自に活動**
- ・普段は知り合う機会が少ない方たちがお互いの活動内容を知るきっかけとなり、新しい活動に繋がっていく可能性がある



オープンデータのエコシステム



「縦割り」の地域活動からオープンデータによる緩やかな繋がりを作る

地域を軸にお互いの存在を知る

■ 地域を軸に色んな方たちが交流する

- ・オープンデータは様々な活動に使える
- ・そのため、誰でもオープンデータソンに参加する意義やメリットがある

■ お互いの存在を知ることで

- ・他の地域活動を知るきっかけに
- ・連携した新しい活動のきっかけに



組織を超えて、お互いを知ることが
私たちにとって「本当の宝物」かも